

資源循環型社会構築の取り組み

2016年度目標と実績



2016年度は、愛知県条例「再生資源の適正な活用に関する要綱」を遵守し、発生量の削減とリサイクルを推進してきました。当社内で発生する副産物の96.8%をリサイクルするに至りましたが、更なる向上を目指しています。残る副産物は技術的にもコスト的にもリサイクルが難しい物ですが、更なるリサイクル技術の開発を進め、社会のリサイクル技術への期待に応えるとともに持続可能な地球環境への貢献に努めていきます。

直接埋立量 **5,114**t/年
 間接埋立量 **3,318**t/年

廃自動車リサイクルへの貢献

2005年から施行された「廃自動車リサイクル法」にともない、トヨタグループでは完全リサイクルを目指して取り組んでいます。当社は豊田メタル(株)と協力してリサイクル向上に努めており、これまでリサイクルが最も困難だったガラス部分について、リサイクル技術の開発を進めてきました。

当社では電気炉から発生する製鋼スラグへ「スラグ沈静材※」としてケイ砂を投入しますが、ケイ砂はガラス成分に近いという点に着目し、ケイ砂と廃ガラスを混ぜて投入することで同様の効果を得ることが可能となったため、廃ガラスを電気炉副資材としてリサイクル使用することとしました。

これにより、廃自動車リサイクル率は99.8%となりました。



▲特殊な成分や色のためにこれまでリサイクル困難だった自動車の廃ガラス

※スラグ沈静材:スラグ成分のコントロール、冷材としての温度降下、突沸の抑制を目的に添加する電気炉副資材

自然共生の取り組み



基本姿勢

COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)の理念を受け、生物多様性の保全に向けた取り組みとして、官民協働で生態系ネットワーク形成を推進し、次世代の担い手の育成を図る活動に参画しています。これまで取り組んできた森林育成活動や社員によるボランティア活動の推進に加えて、生態系を保全するプロジェクトの取り組みを進めていきます。

「オールトヨタグリーンウェーブプロジェクト」活動への参画

オールトヨタで推進している自然共生の取り組みの一つ「オールトヨタグリーンウェーブプロジェクト」に参画しています。このプロジェクトでは、「地域を“つなぐ”自然共生活動」に向けて様々な取り組みを行っており、人と人をつなぎ、活動をつなぎ、生物の生息域をつなぐことで、生態系の回復増加に寄与する活動を進めています。

カブトムシのすむ森づくり

落葉広葉樹の森を形成し、カブトムシをはじめとする生物が暮らし続けていける環境の創出を目的に、2012年度より実施している活動です。知多半島生態系ネットワーク推進協議会や、NPOの学生実行委員会のメンバーにも協力をいただき、育成活動を継続しています。2016年度は、植樹した箇所の除草や灌水を行ったり、「森²(もりもり)イベント」と題して、生物多様性先進企業の見学や、ネイチャークラフト体験、どんぐり拾いからの苗作りなどを行う、社員・家族参加型のイベントとして開催しました。



▶学生実行委員とネイチャークラフト体験